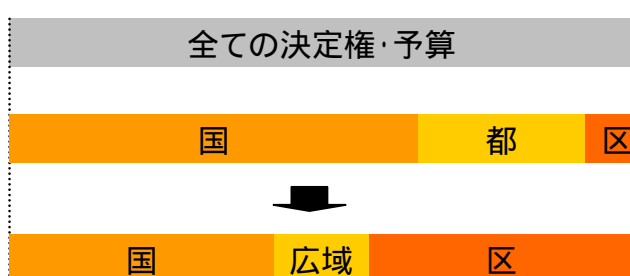


次代への3つの流れ

どうしたら、区民生活や地域環境をより豊かにできるか。そしてどのように、それを維持していけるのか。

今後の世田谷の方向性を考えていく上で、「次代への3つの流れ」を、区政運営に着実に組み入れていく必要があります。

<流れ1> 地方分権



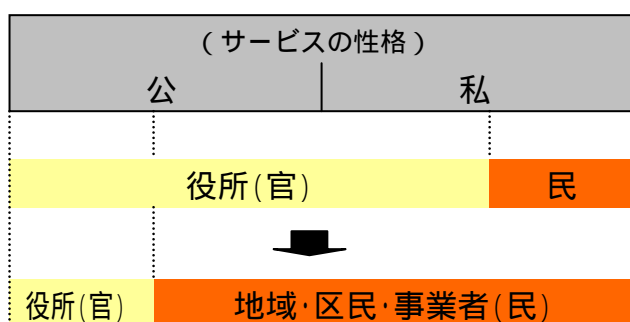
ますます加速していく地方分権の理念は、「自立と責任」。権限と予算が移譲されると共に、個々の責任がより求められて参ります。これまでの行政の責任が、地域の中で分散されてこそ、意味があります。

<流れ2> 決定責任



これまで政治は、ビジョンから執行まで行政が作るシナリオに判を押すだけでした。これからは、政治が、民の代表として、時代を見通したビジョンを示し、責任を持って行政を牽引していく必要があります。

<流れ3> サービスの担い手



これまで役所は、税収拡大に伴い、サービスの領域を着実に広げてきました。これからのサービスは民間が大きく担い、役所は民間サービスの質の確保に力を入れていくなど、役割を集中化する必要があります。

次代への4つの主張

次代へ向けた課題は数多くあります。着実に進めていくことが重要ですが、同時に、区民生活に直結する変化を伴うため、確かめながら一步一步進めていくことが重要です。

これまでの区政の流れを鑑み、来期に向けた短中期的な政策を整理しました。（ ）は具体的取り組みの例

一、世田谷版教育改革

社会の基礎は教育にある。資源の乏しい我が国が、これからも豊かに、また世界に貢献していくためには、人材育成しかない。学力も大切であるが、まず人として、そして社会人として最低限の基礎を、世田谷の教育に据える。

国語教育を基盤とした公教育の再生(日本語教育特区の充実)
地域に開かれた風通しの良い学校運営(地域運営学校完全実施)
優秀な教職員を育成、確保する制度の整備(教育人事権の獲得と独自研修)
社会への理解を深める教育(公民教育・道徳教育・歴史教育の充実)
就学前教育の充実(就学前教育の重視、独自カリキュラムの創造)

一、健康まちづくり

幸福の源は健康にある。心と体の健康を目的とした総合的な施策展開を世田谷区の柱にすべきである。心身の健康を維持していく仕組みづくり、そしてまちづくり、更に家族づくりを様々な施策をもって進めていく。

生涯にわたる健康づくり、予防体制の整備(医療機関と連携した独自施策)
時代に合った子育て環境の整備(保育環境の整備と支援の公平化)
持続可能な介護サービス体制(在宅介護への支援策の充実)
心と体を癒す、文化と緑の薫るまちづくり(みどり保全策のメニュー多角化)
スポーツ環境の充実(厚生年金スポーツセンター取得、スポーツ施設環境整備)

一、経営する自治体

地方分権が着実に進行していく中、自治体運営がそこに住む人の生活に大きく影響する時代へと変化しつつある。区民の血税をより有効に、効果的なサービスに転換していくには、より一層、経営感覚が求められる。

区民の視点と経営の視点に立った行革(100億円の財源創出)
地域資源、区民活力を生かす戦略を全ての施策に(区民活動登録制度)
議会の活性化(議会の機能を高めるための仕組みの改善や待遇の見直し)

一、危機管理都市

区民の生命と財産を守ることこそ、行政最大の使命である。関係機関との連携を密接にしながら、時代に合わせた新しい施策を取り入れながら、より積極的姿勢と創意工夫で取り組むべきである。

あらゆる災害を想定した計画策定と基礎作り(公共施設の安全性の再確認)
自衛隊・消防署との日頃からの連携強化(日常業務における情報交換の徹底)
地域と警察が更に連携する防犯体制の確立(防犯カメラ管理体制の推進)
安全な交通空間、都市基盤整備(狭隘道路の解消、自転車通行帯の創出)